

# きいてくらしやい 昔話

—長岡民話の会—会報第14号 平成22年12月発行

いつもより少し遅く来た秋もいつしか終わり、いよいよ冬の準備に大忙しの今日このごろ。皆様お元気ですか？先生も走るという“師走”ですから忙しいのは当たり前ですが、たまには息抜きにお茶でも飲みながら“はつゆめ”は“橋の夢”にしようか“白ツバキの夢”にしようかと考えたりするのもよろしいのでは？さて、お待ちかねの会報をお届けします。皆さまの良い夢のお手伝いとなりますように…(千)



## ☆活動報告と活動予定

日程	内容
8/20(金), 21(土), 22(日)	第5回長岡民話百物語 会場：長岡市民センター(地下広場) 時間：13:00～17:00 入場者：240名 全会津語りの会との交流会(蓬莱館和泉屋にて) 当会参加者：18名
10/3(日), 4(月)	第4回新潟県民話語り連絡協議会総会 会場：月岡温泉 月岡ニューホテル冠月 当会出席者：20名
10/13(水)	会津喜多方昔話伝承館との交流会 場所：越路もみじ園 時間：11:00～15:00 当会出席者：18名
10/30(土)	伝説の地「妻有の里」視察研修旅行 安養寺公民館にて南雲キクノさんの昔話を聞く 参加者：18名
11/1(月)～5(金)	市民活動まつり(パネル展参加)
その他の活動	・国営越後丘陵公園内古民家にて H22/4月～H22/10月まで月1回の語り ・児童館・図書館・大島・宮内、和島、深沢、 与板、藤川各コミュニティセンター 与板、脇野町、四郎丸各小学校・旭ヶ岡中学校 老人福祉施設等への出前語り等々
H23年 1/22(土) ※新年会(例会)	会場：アトリウム長岡 例会：午後1:00～2:00 新年会：午後2:00～4:00 会費：4,000円 申込は、1月12日(水)の例会にて、又は 大貫(29-3929)まで
※県語り連会第5回大会	開催日：H23年6月5日(日)～6日(月) 主幹：かしわざき語り部の会



## 残酷な民話へ向き合う

高橋 実

日本の五大昔話といわれるものの一つに「カチカチ山」がある。爺さんが山で種まきをしていると、タヌキが出てきて邪魔するので、タヌキを捕まえて、天井に吊るしておく。爺さんの留守にタヌキは婆さんを騙して殺し、帰ってきた爺さんに婆汁を飲ませて山に帰ってゆく。ウサギがその話を聞いて仇を討ってやると言って背中に担いだタヌキの萱に火をつけ大やけどを負わせ、苦しむタヌキに蓼の汁を塗って更に苦しめる。最後に木の舟に乗ったウサギはタヌキを泥の舟に乗せて海に沈めて殺してしまうという筋である。

この話を子ども向きに読ませようとして婆さんを殺して婆汁にして爺さんに食べさせることやタヌキを騙して海に沈めて殺してしまう場面が残酷だと言ってこれを改作してしまう場面はしばしば行われる。婆様を殺すところを省いたり、ウサギはタヌキを殺さず、タヌキに心を入れ替えさせるなどとなっている。

10月30日の十日町伝説巡りで安養寺の「にかっこ滝」で、生きた幼児を滝に投げ捨てるまびき場面に批判が出た。こういう残酷な事実から眼をそむきたい気持ちもわかる。「まびく」というこの行為は、畑の作物がよく育つように、密植を避けて間に育っている作物を間引いて抜き捨てる事を意味している。その事から「口減らしのため親が生児を殺すこと」と広辞苑にも出ている。明治38年生まれで、平成元年に84歳で亡くなったわが母スイは、4人姉妹の末っ子だった。祖父母はあまり女の子が続いて生まれるので、膝に挟んで間引きしようとして相談した事があったと話していた。この時間引きされていたら、今の私はなかった。幼児を膝に挟んで窒息死させる間引き方法もあったようだ。たとえ生活のためとはいえ、嬰兒を口減らしに捨てるなんてことがあるはずがない。『水澤村史』、『つまりの民話 集大成版』（昭和44年 越路新報社）の執筆者が安養寺に蔑視と偏見から書いた架空の伝説にすぎないという。この伝説がどのようにして伝わり、各種の書物に記述されるようになったのか。その経緯はわからない。しかし、現地で「にかっこ滝」を案内して下さったお二人の方もこの話を淡々と話された。そして、捨てられた赤ん坊を育てて、立派に成人させ、他所へ婿入りさせた家の話も語ってくれた。

「カチカチ山」について石澤小枝子氏は、

「子ども向きの多くの本が『婆汁』のエピソードを持っており、しかも読者あるいは聞き手である子どもはこれを昔話と了解して、特に残酷であるとも感じていなかった。むしろこのエピソードがある故に、おじいさんにかわってのウサギの仇討でタヌキが殺されるというラストのエピソードとつりあっていると自然に受け取っていたと思われる」

「昔話と児童文学」（『昔話—研究と資料—20号 昔話と子ども』平成4年）

と結んでいる。安養寺の「にかっこ滝」もそういう話があるがゆえに、間引きされて偶然助けられた子どもが立派に成人した話が生きてくるのではないだろうか。間引きされそうになったわが母から聞いた話で、生かされた私もわが命をいとおしむ気持ちになって来る。





酷暑の8月20日、21日、22日の昼下がりに今年も「あったてんがな長岡民話百物語」が開催されました。この会では、ふる里の民話を中心におよそ百話を三日間に渡り、生語ります。おおぜいの語り手が次々と交替し、好きな話を語り合い、聴き合います。

一方、一般の方は開演中、入場退場自由で、気軽に民話を聞いて頂けます。私も聞き手・語り手のひとりとして参加して、とても充実した三日間を体験させて頂きました。

まず、感じたことのひとつは、お客様の中に、去年に続いて再び来て頂いた方々がおられて、嬉しかったことです。また、語りを聞いての感想やアドバイスを下さる方々もいて、なお有難く感じました。

おいで下さったといえば、県内で近くから遠くから民話語りサークルの語り手さんが来て下さいました。

また、今年は会津の語り部の方々が旅の途中で、百物語会場に立寄って下さいました。そして、突然お願いしたのに応じて会津の民話語りをして下さいました。

私にとって、今年の百物語で特に印象に残った語りのひとつが始めて聞いた会津の語りでした。語り手は下鳥さんで民話は長岡でも語られる「へび婿」だったと思います。

「思います」とは、実は会津独特の言葉やイントネーションなどで半分くらいは聞き取れなかったからです。それなのに、強く引きつけられたのです。言葉の理解がおぼろげにしかできなくても、まるですぐそばに闇があるような雰囲気を感じられ、不思議なドキドキ感も感じられた気がしました。語りを聴くって面白いですね。言葉を十分に知らなくても、何か伝わってくるものがあるなんて。

ところで、まだまだ未熟なのですが、私も皆様の前で語り手を勤めました。おおぜいの方々の前で、それも語りの先輩方や子供時代に伝承のまま民話を聞いていた方々の前で語るのは勇気がいります。

二日目の第一部、その時も身の縮むおもいで、壇上にあがったのですが、語り始めて間もなく少しアレっ？と感じました。

聞き手の前列の左の方から「さ～す」と声が掛けられたからです。柔らかい声が数人合わさって、その後も何度も掛けられます。柏崎語り部の会の皆さんからのようでした。その声は、私の語りの節目節目にタイミング良く入って来ます。それを聞いている内に私は、段々と緊張がほぐれていくようで、次第に「さ～す」の声が、物語の運びをリードしてくれるようでした。

かつては、民話語りの場で自然と入れられていたと聞く「さ～す」というあいづち。聞き手が反応してくれると語りはますます生き生きしてくるのだと、この機会に初めて実感することができました。

これらの体験を忘れずに少しずつ、来年の百物語まで民話に親しんでゆこうと思います。





人生二回戦に想いを馳せて

小原 敬策

三年前、狭心症外科手術で四日間の意識不明から奇跡的に助かり、その後続けて胃癌と大腸癌と医療技術の先端の腹腔鏡手術で成功し、日本医学の進歩に驚き、また助けられながら皆様の温かいサポートで今日まで参りました。

四日間の意識不明の間は、皆様の経験のない極楽浄土の夢を見ました。

それはなんとも云われない温かい春の段々畑の景色で、菜の花に蝶々が飛び交い、老夫婦が縁側でお茶を飲み交わし談笑しながら私の方に向かい呼びかけている風情でした。

私は呼ばれて近くへ行き、老夫婦を探しましたがその時すでに老夫婦は姿を消して何もありません。

そこで私は息を吹き返してこの世に戻り今は元気で生活をしています。

家内共々、何しろ長い一年半に及ぶ大病の後ですので、体力は衰え、ヘルパーの仕事も今までのようには出来なくなってしまいました。

それでもこれまでお世話になった皆様に何か少しでもお礼がしたいと思っておりました時に、福祉協会の紹介で長岡民話の会に入会させて戴きました。

最初は軽い気持ちでしたが、出席する度に皆様の勉強の深さと熱心さに接し、昔話の奥深さに驚き感心しています。

日本一の大河・信濃川に育まれた悲喜こもごもの生活・風俗・文化、シベリアから吹き寄せる寒風が佐渡や越後山脈にぶつかり雪を降らせる越後の冬。その生活の苦労の中から来る信仰に助けを求め、やすらぎを感じ、囲炬りかこむ温かさにからむ性風俗等、すべてが民話・昔話となり、昔の人々の生活の様子に感謝感心しています。

今年一年、民話の会にお世話になりながら、新聞を読んで心に感じた歌を記してみました。

奈良場 サキ

絵手紙に 解説付けて 敬老日

河野 裕子

手をのべて あなたとあなたに 触れた時

息が足りない この世の息が

10月30日、民話魚沼紀行の公民館の南雲さんの語りの表情・性格人間性が非常に良かった。民話は語る人によって違って来るなと思いました。

来年も御教導下さい。生活を大切に。

ご縁をありがとう。

合掌